

推進校別事業実績報告書

<取組と成果のポイント>

- 道徳重点項目・各学年重点項目を中心に、道徳の時間の授業研究を計画的に実施した。研究の柱に沿って事後研究を積み上げてきたことにより、授業の改善、話し合える授業づくりの研究が進み、話し合いを通して価値を深める道徳の授業が展開できるようになってきた。
- 道徳の時間と関連づけたいろいろな行事や仲間づくりの活動を実施し、児童はその中においても周りの人と「かかわり合う」ことが増え、自分はどうしたらよいのか、どのようにかかわりをもつとよいのかを考え、また振り返ることができるようになってきた。
- 教育講演会、授業公開、道徳アンケートの実施、あいさつ運動、各種お便りなど、学校での取組を家庭や地域に発信したり、働きかけたりしたことによって、道徳教育や子育てに対する保護者や地域の方々の理解、協力が深まった。

1 推進校の概要等

推進地域名	福井県小浜市			
学校名	所在地	電話番号	児童生徒数	備考
<small>おばま おにゅう</small> 小浜市立遠敷小学校	福井県小浜市遠敷 72-17	0770-56-1115	223名	

2 研究課題

- I 学校の教育課程を踏まえた道徳教育の内容の重点化
 - ⑤共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任をはぐくむ道徳教育
 - ⑦人間としての在り方、生き方の自覚を深める道徳教育
- II 道徳教育の計画的推進と道徳の時間との関連的な指導の工夫
 - ⑧多様な道徳の教材の選択・開発とその効果的な活用
- III 指導体制や異校種、家庭・地域等との連携体制の充実
 - ⑩家庭や地域等との連携による一体的な推進の在り方

3 研究主題とその設定理由

『 豊かな心をもち、よりよく生きようとする児童の育成 』

本校の児童は、とても明るく、人なつっこい児童が多い。また、子どもらしく活気があり、元気に活動することができる。しかし、日常生活の様子を見ると、幼少の頃から同じメンバーで過ごして慣れてしまっているせいか、時として相手の気持ちを深く考えずに友だちの気持ちを傷つけてしまうことがある。また、してはいけないと分かっている、周囲に流されてしまい、適切な判断ができないときもある。生活リズムに課題を抱えた児童や自己肯定感の低い児童などもおり、課題も多様化してきている。

このような実態を受け、「道徳の時間」の充実はもちろんではあるが、日々の生活において

様々なかかわり（自分自身・他者・自然・集団や社会など）が豊かにもてる体験を充実させることによって、豊かな心の育成ができると考え、この研究主題を設定した。

4 研究の概要及び特色

(1) 研究の体制

取組を推進するに当たって、各部会の研究内容がより明確化するように、本年度は、再度研究体制を見直した。また、教職員は3つの研究部会のいずれかに所属し、それぞれの部会が関連して動くような体制を組織した。

○授業づくり部会

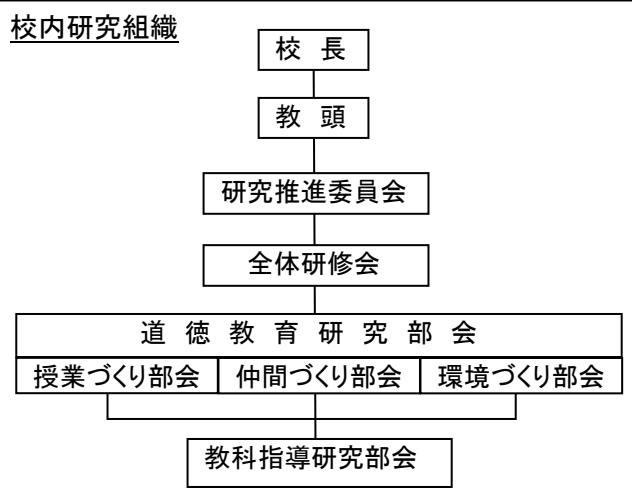
授業研究などを計画し、授業研究の持ち方や話し合いの視点について提案する。授業の工夫、道徳の時間の充実を図る。

○仲間づくり部会

学級づくりの提案、縦割り活動、委員会活動など仲間づくりを中心とした活動の計画、実施。地域と連携したあいさつ運動などを行った。

○環境づくり部会

学級内、学校内の道徳的環境づくりを計画、提案する。教室では「道徳コーナー」、校内には「こころの広場」「しあわせのクローバー」「しあわせカード」などを掲示した。



(2) 取組の状況

①道徳の時間の充実を図る取組（関連課題⑤⑦⑧）

○道徳授業研究会の実施

教師の指導力の向上を図るため、授業研究会を多く持った。児童の考えを引き出し、ねらいへと迫る授業展開ができるよう、①発問の工夫について（中心発問は適切だったか、児童の考えが深まる切り切り替えし発問ができたか）②話し合いの工夫について（学年に応じた話し合いの場面があったか、多様な意見を引き出す話し合いができたか）③書く活動の工夫について（書く目的をはっきりさせその場面は適切だったか、書くことにより児童の考えを引き出し整理されていたか）ということに焦点を当て事後研究会で話し合い、検討を重ねた。

○道徳の授業の工夫

各教科や領域、そこにおける体験活動などに関連付けて道徳的な価値を深め、道徳的実践力を育てていきたいと考え、総合単元的学習を構成し、指導案にも明記した。学期ごとの小スパンで取り入れ、行事、体験活動、道徳の時間が互いに関わり合うようにした上で、道徳の授業では、ねらいを明確にし、より深く道徳的な価値に迫れるように意識して取り組んだ。

昨年度作成の価値項目を4つの言葉で表現した「**しあわせのクローバー**」を掲示、活用し、授業のねらいの方向付けに役立てたり、どんな自分や仲間に成長していきたいか、ワークシートを工夫して書かせたりした。

その他、ネームカードの活用、役割演技を取り入れた表現活動等授業過程での工夫や、自作資料の開発、道徳教育重点項目の設定等、児童の実態に合った資料選択の工夫をし授業実践を積んだ。



役割演技を取り入れた自作資料の授業



話し合うための座席の工夫



ネームカードの活用

②他の教育活動や環境づくりを生かした取組（関連課題⑤⑦⑯）

○縦割り活動での仲間づくり

縦割りグループでの遊び、集会活動、遠足、体育大会などの行事等、縦割りでの活動を通して異学年の仲間と接することにより、所属意識と自己有用感が高まった。また、高学年のリーダーシップ力を高め、仲間の励ましと協力により、くじけないで努力する態度が育ってきた。

○「ほかほか言葉」「しあわせカード」など学級活動での取組

少しでも思いやりのある優しい言葉遣いができるようにと願い、周りのみんなが温かい気持ちになるような「ほかほか言葉」を各学級で児童が話し合って決め、使っていくよう心掛けた。掲示して取り組みを意欲付けたり、振り返る時間を持って意識付けたりして各学級で工夫した取り組みを行った。

「しあわせカード」は、自分が見聞きしたり、受けたりした親切行為をカードに書く活動だが、好ましい人間関係のモデルとなり、よりよい仲間づくりを目指すと共に、個々の自尊感情を高める効果があった。

○「こころのひろば」「道徳のひろば」など環境づくりの工夫

道徳の時間に学習した内容や感想、その前後に取り組んだこと等を教室に掲示した。学習の足跡が残り、児童が振り返ったり考えを深めたりできる場となった。



縦割りグループでの「クリーン作戦」



廊下の掲示物「しあわせカード」



全校集会で発表「ほかほか言葉」

③家庭や地域との連携（関連課題⑯）

○あいさつ運動の広がり

運営委員会の児童を中心に、全校児童が学年ごとに輪番で校門に立ち「あいさつ運動」を続けた。登校してくる児童、校門付近を通る大人、通学途中の中高校生へ自分から大きな声であいさつができる児童も増え、互いにあいさつを交わす様子も見られるようになった。また、これらの取り組みを伝え、4～6年生が描いた「あいさつ運動」のポスターを地域の公共施設に貼らせていただき、協力を依頼した。隣接する若狭東高校にも協力依頼、高校生との「あいさつ運動」は大きな成果があった。



朝から元気な心の交流「あいさつ運動」

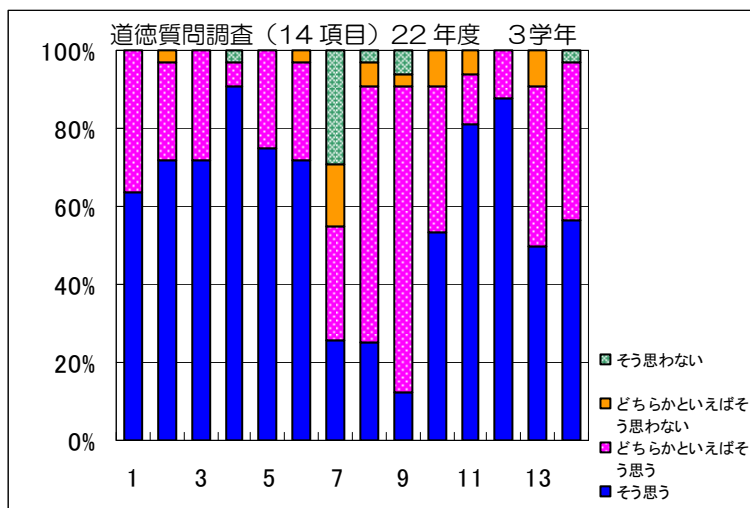
○道徳アンケート、授業公開、懇談会、教育講演会実施などの家庭への啓発活動

道徳教育の観点から学校と家庭が連携し、共に子どもの成長を考えるために、道徳の授業参観と参観後の懇談会を行った。家庭に協力してもらい実施した道徳アンケートの結果についても話し合いを持った。道徳授業や教育講演会等については、内容やその様子を学校便り、学級便り等で随時家庭に知らせ、学校での取り組みを理解してもらう機会とした。

5 研究の評価

（研究の成果）

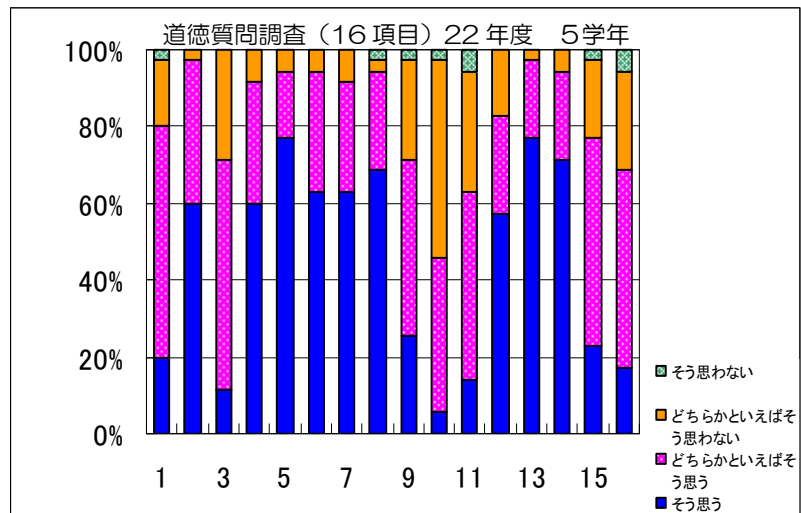
- ・教職員や保護者の願いを込めた「しあわせのクローバー」を提示したことで、児童がどんな自分や仲間になればよいのかを明らかにし、分かりやすい授業の提案ができた。
- ・道徳的価値を中心に置いた総合単元的な学習を構想し実践してきたことで、道徳の時間に学んだことをいろいろな体験活動や人とのかかわりの中で意識して実践できるようになった。また、行事や体験活動、他教科・領域との関連を見直すと共に、多様な教材の開発につなげることができた。
- ・「あいさつ運動」の活動の継続により、大きな声で、自分から、相手の顔を見て、笑顔で…と一人ひとりの段階や課題に違いはあるが、昨年よりも確実に意識してあいさつができるようになってきている。保護者へ依頼の学校評価にも「あいさつが子ども達の手本となっているかどうか」の項目を設け、家庭や地域への啓発も引き続き行うことができた。
- ・文科省道徳質問調査（1月実施）の結果では、昨年とあまり変わらない、多少だが悪くなっている項目も見られる。昨年度と同じ児童へのアンケート



ートといえど、低学年だった2年生は中学年となり、4年生は高学年となり、微妙な心の変化も見て取れる。特に5年生では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせても80%に満たない項目があった。

「10. きまりを守ること」や「16. 責任をもつこと」の意義を様々な体験を通して児童に考えさせ、実践意欲へ

と導かなければ心の変容につながらないのではないかと考える。また、授業における手作りのワークシートの活用が多かったため、「心のノート」の活用が十分とは言えなかった。授業やいろいろな活動の場面にもう少し意識して組み入れていかなければならない。



（今後の課題と予定している取組）

さまざまな取組により、『豊かな心』が育まれつつあるが、予期もしない突然の場面に出会った時や自分の課題を解決する時に、どうしていいかわからない、相手の気持ちが理解できないといった様子がまだまだ見られる。『よりよく生きていこうとする児童の育成』を目指し、さらに道徳の授業の充実を図り、道徳的心情を高めて道徳的实践意欲と態度の向上につなげていかなければならない。

- ・校内授業研究を行い、資料分析や指導過程の工夫、心のノートの活用などについて研究を積み授業力の向上を目指す。
- ・児童のコミュニケーション力、表現力を高めるために道徳の時間だけではなく、全教育活動で工夫する。
- ・やさしい思いやりを持った言葉かけができるように、全校で取り組む目標を設定し、言葉遣いに気をつけ、温かい言葉のあふれる学校にしていく。
- ・家庭、地域を巻き込んだ「あいさつ運動」を継続し充実を図る。
- ・異校種間や地域との連携、情報交換も引き続き行う。
- ・道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度を結びつけた生徒指導を行っていく。